

【エントリー情報】

自治体名：〇〇県〇〇市

学校名：〇〇小学校

ご記入者：種田 未来（たねだ みらい）

ご役職：主任教諭

メールアドレス（※業務用のアドレスをご記入ください）：mirai.t@xxxx.ac.jp

電話番号（※業務用の電話番号をご記入ください）：000-000-0000

【設問】

① 貴自治体・貴校で目指している目標（ビジョン）・目標に至った背景・想いを教えてください。

（1,500文字以内）※可能な限り自治体や学校全体の目標をご記入ください。

本校の学校教育目標は「豊かな心と他人への思いやりをもった子、自分で考え発信できる子」です。この目標を達成させるために、一人ひとり違った個性を大切にしながら、共に学び、いろいろな考え方にふれて高め合う教育の推進を行っています。

変化が早い時代にあってさまざまな社会課題があるなか、令和3年中央教育審議会答申（「令和の日本型学校教育」の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～）からも、子どもたちにこれからの社会を生きるための資質と能力の育成が学校現場に求められていると感じており、本校では「個別最適な学び」「相互評価や子どもが自分の意見を表現・発信し共有ができる学び」の実践的な研究を行い、これまでの指導からの進化・深化に取り組んでいます。

「豊かな心と他人への思いやりをもった子、自分で考え発信できる子」の育成のため、児童につけさせたい力が何かを明確にし、共にかかわりあって学ぶ楽しさを味わわせる授業づくりに、ICTを活用したいと思っています。子どもたちはもちろん、教員同士も高め合い学びを止めない学校にするために、教職員の主体的な参加と、チームワークを生かした学校運営の推進に力をいれています。

② 目標（ビジョン）に向けた具体的な個人のお取り組み・学校全体でのお取り組み、学校の枠を超えて市や他校へ広がったお取り組みや、その中で発生した課題や苦勞を教えてください。

（1,500文字以内）

子どもたちはICTを使った学びが大好きです。一人一台タブレットが支給されたときは、どの子も顔が輝き、「どんどんやりたい！」という気持ちが伝わってきました。どう使えば、子ども同士のかかわり合いが広がり、主体性を伸ばしていけるだろう？教員もこの新しいツールで楽しんで学んでいきたいと、2021年度に「ミライシード」が導入された当初から「ICT活用研修会」を結成しチームメンバーを中心に、教員同士で活用

の仕方を学び合い、授業事例を共有し、子どもたちが主体的に学んだり発信したりできるような ICT 活用の実践に力を入れてきました。

導入された当初は普段から ICT を活用している教員とそうでない教員とで学級での活用頻度に差があることが課題でした。また、全国的にも ICT を活用した授業の実践例も少なく、使いたくてもどのように活用すればよいのかイメージがつかない教員が多い状況でした。

そんな中、まずは ICT に意欲的な教員が中心となって、「ICT 活用研修会」という、任意参加の会を毎週 1 回決まった時間で行うようにしました。

その時間で例えば、市の研修会に参加して得た情報や、うまくいった実践事例を共有しています。その週の実践を報告し合ったり、ミライシードのウェブセミナーを一緒に見て話しながら疑問を解消したり、「簡単なアンケートを取るにはどうしたらよい？」など、気負わずに、行けばちょっとしたコツが手に入るような、教員にとって楽しく学べる、参加しやすい場になるよう工夫をしています。

場に参加するのが難しい教員もいるので、「ICT 活用研修会通信」を作成し紙面で配付するなど、学びの共有を地道にやってきたこともあって、本校は市内でミライシード使用率が一番になりました。これからも、タブレットや ICT を使うことを第一の目的とせず、よい実践事例を参考にしながら、より深い学びに繋がるような取り組みを続けていきたいと思っています。

③ (3-1) ICT を活用することで、先生のご指導や働き方、児童・生徒の学び方や学習への態度、学習成果などにどのような変化があったか、またこれらの変化をどのように評価されているか教えてください。(2,000 文字以内)

Google フォームを利用して小テストや単元末テストを実施することで、採点や記録の時間を削減することができました。子どもたちも自分のつまずきにこれまでより早く気づくことができますし、教員はそれを踏まえて普通の授業準備に時間を充てられ、好循環が生まれました。

また、前年度の「オクリンク」を使った授業数は 2 回でしたが、今年度は 20 回行いました。回数が増やせたのは、授業時間に充てられる時間が増えた背景あったように思います。アナログなやり方で子ども同士の共有を図ろうとするとやり取りが偏りがちでしたが、「オクリンク」の活用によってクラスメイト全員と短時間で効率よく考えが共有できました。書くことが得意な生徒はお手本になるよう一生懸命考え、苦手な生徒は、それらを見ながら自分なりの考えを書こうと粘り強く取り組むようになりました。

ほかにも、植物の様子を端末で撮影・記録する活用により、何度も画像を見返すことができ、撮影時には気づかなかった変化に気づいたり、じっくり観察を深める時間を確保できたりと有効な活用につなげることができました。また、観察をまとめる場面では、タブレットの方が紙に書くより速く、様々な考えを記入することができました。消して書き直すことへの抵抗が減るので、とりあえず書いてみるできるようになったのも学習として大きく変化したように思います。また、うまくまとめられるようになったことで意見交流も活発になりました。ほかの子どもの意見を自分の意見に組み込んだり、少し違う見方も認め合ったりして意見交流のあり方が変化しました。

(619 字)

(3-2)ICT 活用による成果について、定量的なデータでお示し可能なデータがあれば、教えてください。(1,500 文字以内文字以内) ※本設問のみ任意回答

ICT 活用率を上げるための研修を数多く行い、授業での実践を増やした結果、昨年度末と今年度中間期で行ったアンケートでは、「どの授業も、タブレットなどの ICT を活用した学習をしている」の比較で、教員の値は約 30%上昇し、活用意識が高まっています。

また、子ども向けの「授業で自分の考えを伝えようとしていますか」の項目は、約 15%の上昇、「意見交流をすることで理解が深まりましたか？」の項目は約 10%の上昇が見られ、授業に意欲的に向かう子ども、かかわり合いの中で理解が深まった子どもが増えたことが目に見えてわかりました。

④ お取り組みの中でのミライシードの活用画面・活用機能お取り組みの中でミライシードが役立つ場面・活用頂いたアプリ/機能を教えてください。

※活用エピソードが複数ございましたら、文字数制限内でご記入ください。1 つのエピソードに絞る必要はございません。(2,000 文字以内)

■小3の「昔のくらし」の学習で、地域の古民家施設を訪ねた後、「今と昔のくらしのどちらが理想か」というテーマで、「オクリンク」を使ってクラス全員の考えを把握したり、そう考える理由を共有して考えを深める活動を行いました。

提出 BOX で、まずはクラス全体にどんな意見があるのかを全体共有します。「今のくらしがよい」子と「昔のくらしがよい」子、どちらの理由にも触れ、多様な考え方があることを知らせます。次にグループに分かれて、なぜそう思うのかかわしく話し合います。最終的にはグループでどちらのくらしがよいか意見をまとめてもらい、クラス全体に発表してもらいました。最後は個人で考えを深め、まとめカードを記入させますが、このとき、「みんなの話を聞いて、最初の意見と変わっても O K だよ」と声をかけ、教員は意見の変容を見取ります。これまでのプリントや一斉指導では、意見の変容までを見取るのは難しかったのですが、ICT を利用すればひと目で把握することができ、それぞれの子どもの気持ちの変化や相手の意見を受容する成長を可視化することができます。学期内での振り返り、学期比較での振り返りといったことも容易にできるようになりました。

■カード一枚を一段落の内容にして、穴埋め形式で順序を整理したり、内容を吟味したり、構成メモに準じた使用では、作文や発表に展開するなど思考・判断・表現が一体となる活用に効果が高かったです。これまでみんなの前で意見を発表することには力を入れていましたが、どうしても得意な子に偏りがちでした。「オクリンク」のカードを使えば、低学年でもカードを入れ替えることで簡単にプレゼンテーションが組み立てられるので、内容の推敲そのものに時間がかけられます。多くの子が思考の表現・発信の経験を重ねることができました。

■高学年では、主に「ムーブノート」のカードに選択肢と理由を書いて、話し合いで合意形成をする際に ICT の効果を感じることができました。選択肢集計を使うというだけで子どもたちの授業参加の意識が高まりますし、「みんなの広場」に提出された友だちのカードを見ることで、こんな考え方があるのかと学び合ったり、ほかの人を参考に自身のカードを書き始める姿も見られました。誰がどの選択肢を選んだか、どんなことを考えているかがひと目でわかるので、指名やグループ活動など授業展開がしやすくなりました。

■「ムーブノート」を使えば教員は、「拍手」が多い順に紹介する、よく出てきた言葉を分析するなど、子どもの興味・関心の高いことを即座に見取れ、共有時は名前を公開にも非公開にもできるので、どちらがより議論が活性化するか、生の授業ならではの展開を主導していけます。具体的な教科で例示すると、

- ・（算数）多角形など図形の補助線や体積の求め方の図示
- ・（国語）物語文で初読の感想や主題の共有
- ・（図工）写真と組み合わせた作品カードと相互評価
- ・（道徳）あいまいな気持ちを座標軸にピンを打って表現

といった使い方が各教科・学年で日常になってきました。フォーマットの使い方をすれば作業時間に負荷がないため、クラスや学年を超えた活動にも利用範囲を広げていけます。

子どもたちの意志表示をするための方法が、いろいろなやり方で保証され、どの子も学習に参加できる場があり、教員の指導と評価の一体化が促され、業務負荷の軽減にも繋がったのは、インパクトのある ICT 活用だと考えます。

これからは「豊かな心と他人への思いやりをもった子、自分で考え発信できる子」の育成のため、児童につけさせたい力が何かを明確にし、共にかかわりあって学ぶ楽しさを味わわせる授業づくりに、ICT を活用していきたいと思っています。